



ねんりんピック体験談

ねんりんピック秋田2017『秋田からつなぐ！つらなれ！長寿の輪』のウォークラリーで出場しました。その体験を紹介したいと思います。

ねんりんピックに出場して体験談を書こうとした切掛けは、ねんりんピックの出場経験者を何人か取材して、多くの皆さんが「非常に良かった」。特に、競技以外の部分での魅力を話して頂きました。

その魅力は「体験しないと分からないな？」と思っていました。そんな時、元生きがい特派員の先輩からウォークラリーでねんりんピックに行こうと声を掛けて頂きました。「喜んで！」と即答しました。同時に、「簡単に県代表になれるの？」と言う不安が出てきました。

富士のふもとと近くに住む5人でチームを結成、参加すると決めて、競技内容を調べ、まず県予選突破を目指しました。

コマ地図は経験が有りましたが、クイズ、観察ゾーンに於ける問題の作り方やゲームは予測がつかせません。輪投げや紙飛行機等ゲームを想定した練習。そして、予想クイズを調べ、予選会に臨み、僅差で優勝。目標のねんりんピック代表権を獲得しました。

健康上の理由で出場できない人が出て、メンバーが二人交代。秋田大会に向けて、監督のリーダーシップの元、新しいメンバーでミーティングをして、チームワーク作りから始まりました。役割分担を決め、自主トレが始まりました。葉っぱの見分け方、小豆の箸移し、おはじき入れ、秋田、角館の歴史等、本選に向けて準備を進め、作戦会議も2回行い、各役割の進行状況をチェックしていきました。

生まれて初めて県代表となり、ユニフォームを着ると、なんだか誇らしげに感じます。在住の三島市の励会会で市内代表の他競技の選手と一緒に市長から期待の言葉を頂きました。

ねんりんピックの魅力は競技以外にも多く有りました。その魅力と感動を少しでもお伝えしたいと思います。写真はチーム『富士山っち』の左から監督の渡邊英機さん(73才)、白井義博さん(70才)、山下三男さん(79才)、体験取材の加藤孝(70才)、上野真さん(68才)いずれも年齢は登録年齢。



ねんりんピック体験談

今年30回目を迎える秋田大会ですが、この記事を読まれている方でも、「ねんりんピックって何？」とご存知無い方がいると思います。そこから紹介させていただきます。

正式名称は全国健康福祉祭(愛称;ねんりんピック)。1988年に始まりました。厚生労働省、開催都道府県(政令指定都市)主催、スポーツ庁共催。目的はスポーツや文化種目の交流を始め、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を中心とする国民の健康保持・増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与すると有ります。

本大会に静岡県チームはスポーツ交流大会10種目、ふれあいスポーツ交流大会10種目、文化交流大会3種目の計23種目に登録。政令指定都市は単独チームとなります。静岡県は静岡市、浜松市、その他の市町村は静岡県のチームとして参加しました。

ここで、注目したのは競技大会ではなく交流大会である事です。ガチンコで競技するのは、現在行われている国体の愛媛大会に譲って、我々はスポーツ、文化を楽しむ仲間として交流を楽しみながら、競

ねんりんピック体験談

技をする事です。

開会式の前日9月8日10時に三島駅集合。黄色の帽子が目立ちます。「こだま」、「やまびこ」と乗り継ぎ、岩手県北上市で一泊。選手は3つのホテルに分宿ですが、静岡県選手団の出陣式が行われました。

しずおか健康長寿財団佐古理事長の挨拶で始まりました(写真左)。テーブルにはウォークラリーの5人が別々のテーブルに分かれました(写真右)。他の競技の人との交流です。

私のテーブルには剣道、マラソン、健康マージャン、サッカー、ラグビー、弓道、太極拳のメンバーと交流ができました。ウォークラリーってどんなスポーツなの？と質問に答えながら、競技内容以外についても交流ができました。



[ねんりんピック体験談](#)



[ねんりんピック体験談](#)

時が進み、会が盛り上がってきた所で演壇ではラグビー選手が余興をやりました。続いて、太極拳(写真右)の選手が場を盛り上げてくれました。



[ねんりんピック体験談](#)



[ねんりんピック体験談](#)

飛び入りで、ダンススポーツの選手が曲に合わせて華麗なステップを披露してくれました。(写真左)。そして、サザエさんのお面をかぶった選手がサザエさんの歌に合わせて踊ってくれました。

団塊世代を中心とした世代は凄いですね。多分、何回も全国大会に出場した経験があるのでしょう。面白く、楽しくも有り、明日からの競技を忘れ緊張を解してくれました。これもしずおか健康長寿財団のスタッフの気配りでしょう。スタッフの皆さん有難う、そして明日からも宜しくお願いします。これが一つ目の魅力。楽しんで、県内の他競技の人と交流する。中には共通の知り合いがいる方もいました。

出陣式が終わって、宿泊ホテルのロビーでも他競技の人と交流をしました。お互いの競技、歩んできた人生の話。高度成長を経験してきた団塊の世代は話題が豊富で話がつきません。しかし、明日の開会式に合わせ22時前にお開きとしました。



[ねんりんピック体験談](#)



[ねんりんピック体験談](#)

開会式の朝、早く起きて荷物を預け朝食です。ホテルでは島根県の人と一緒にでした。朝食時間をずらして、一緒にならない様に調整しているのですが、ねんりんピックの選手はどここの県でも朝が早いのです。ツーリストの人でも大変です。静岡県の人が終わってから島根県ですと並んでいる人に説明していました。

朝食のバイキングは美味しいものが出ました。唯一の欠点は食べるまでに時間が掛かる事でした。しかし、朝食後の出発までに薬を服用して、歯を磨く時間は十分確保したスケジュールでしたので、忘れ物も無くバスに乗車。

ホテルから2時間足らずで開会式会場の秋田県立中央公園に到着。会場隣のサブグラウンドは選手団で埋まる。地元の小学生が静岡県の横断幕を作ってくれました(写真左)。感動を受け、思わず『有難う！そして拍手』。プラカードを持つのは地元の高校生。

秋田県挙げてのイベント、凄い規模としか表現ができません。行進前に待機するサブグラウンドは芝生、そしてミニ座布団が財団で準備して頂いたお蔭で、ゆったり待機出来ました。私達も余裕の笑顔です(写真右の中央5人)。



ねんりんピック体験談



ねんりんピック体験談

入場行進は自分で写真が取れません。大会委員長の前で土居団長に合わせ、黄色の帽子を振る。きっと色映えが良かったと思います。

写真左で人数規模の大きさが分かります。「県代表なんだ！」と実感。開会式で知事を始め、厚生労働副大臣、スポーツ庁長官、秋田県議会議長が挨拶しました。規模の大きさが分かります。私の気持ちはまるで県代表で国体に参加している気分になりました。とても気分が良いのです。この年で、選手として全国大会は生まれて初めてです。一人で心の中は気分ルンルンでした。

開会式が終わり、セレモニーが始まりました(写真右)。秋田県の祭りと言えば『竿灯まつり』ですね。多くの竿灯が披露されました。風が強いので倒れるのも有りましたが、それはそれで見応えが有りました。重量50キログラムと聞きました。肩、又は腰、額の上でバランスをとるのです。選手団から盛大に拍手が送られました。『竿灯祭りに感動した』とチームのメンバー述べています。



ねんりんピック体験談



ねんりんピック体験談

大人から小学生くらいまでの年代層と一緒にダンスや一輪車で舞ってくれました。私の孫の様な幼い子がお姉さんの後ろと一緒に回ってダンスを披露してくれました。可愛らしく感動ものです。『本当！』

大きな青いシートが運ばれました(写真左)。そしてグラウンド中央から、シートが開き風船が放たれました(写真右)。高く高く舞上がる風船。感動のフィナーレです。セレモニーを見ながら食べた秋田産の素材を使ったお弁当は美味しかったです。ご馳走様。



[ねんりんピック体験談](#)

ウォークラリー会場が仙北市角館の為にホテル行のバスが運行。ここでウォークラリー監督は各種目代表者会議の為に別行動。

出発時間までふれあい広場で、お土産や展示物、次回会場の富山県のブースやその翌年開催の和歌山県のブース見て回りました。

開会式が終わり、選手団は競技別に会場が異なるので、ここで、解散し競技会場近くのホテルへ移動。ウォークラリーの他県メンバーと一緒に行動でした。島根県の方と交流しながら、ウォークラリー以外の話で盛り上がりました。

田沢湖のホテル『森の風』で温泉にゆっくり入った後、監督会議の結果を聞き、夕食を取りながら歓談しました。他県選手との交流もできました。明日の本番を控え、22時には就寝。明日の競技に向け体調管理に万全を期す。

ウォークラリー種目は体験談その2をご覧ください。

取材；東部・田方地区生きがい特派員 加藤 孝